

オリエンタルビル 平松潤一郎社長インタビュー

再開発に注力して 50年後に「いいものを創ってくれた」 と言われるのが私の使命

名古屋の中心・中区栄。再開発進行中で、まぶしく輝く完成したばかりのビルや、威容を現しつつある建設中の建物、構想が明かされるプランなど日ごとに違った姿を見せている。名古屋一の盛り場は装いを変えつつあるのだ。栄交差点角のランドマーク・名古屋三越百貨店ビルも近い将来再開発され、新しい超高層ビルに生まれ変わる構想がある。同ビル所有のオリエンタルビル社長（兼オリエンタル興産社長）、平松潤一郎さん（72）に栄の来し方行く末などを伺った。



——オリエンタルビルの歴史を教えてください。

平松 名古屋の3大女傑の一人と言われた祖母の平松さわ（1894～1978）が戦後すぐに事業展開したのが始まりです。祖父・豊助（1886～1934）は県会議員で、清洲で主に鶏の飼料を手広く扱う「平松商店」を経営していましたが、祖父の急逝で跡を継いださわは、戦時色が強まる中、軍需品のスルメ、ニシンなども調達。終戦を迎えて大量の在庫になるも急きょ敷地内に佃煮工場を建て、佃煮製造と同時に鶏卵の卸も始めました。食糧難にあえぐ終戦直後の復興期で、大当たり。

現在の名古屋三越と中日ビルの間の敷地約700坪を手に入れ、西洋風2階建てのヤマトホテルを1946年に開業。戦後名古屋初の本格的ホテルでしたが、区画整理で100m道路（現在の久屋大通）の用地にあたり、換地で現在のオリエンタルビルの一部を得ました（ホテルは1956年に解体）。

さわは今度はそこに「自分で百貨店をやりたい」とひとりで東京・三越に乗り込みました。如何せん力不足で、進展しませんでした。当時の三越側の窓口が後の社長・岡田茂氏。色々

教えていただき、ビルの運営会社の道を模索して、出会ったのが広小路で商いをしていた中村呉服店。京都出身でオーナーは松居修造氏。テナントとして入り、2社で一緒にやろうと合弁会社「オリエンタル中村百貨店」が誕生しました。

——1954年ですね。

平松 当初は7階建ての予定でしたが、ビル建設より製造業優先の時代で、3階までの制限がありました。それでも将来を見据えて基礎はしっかりと造りました。

同年5月オープンの新百貨店は衣料、貴金属のほか、地下1階の食料品売り場や食堂、屋上の遊園地など今で言うテーマパークのような賑わいでした。

1956年、第二期工事で7階建てビルに。次いで62年に8階建ての東館が完成、69年、栄共同ビル完成などが続き、ほぼ現在の姿に形作られました。

東館完成で売り場面積約1万4000坪に拡大しました。ビルは東北角の402坪の角地を囲むL字型。角地は多くの所有者が居て複雑でしたが、少しずつ買い増しして最終的に3人の地権者とオリエンタルビル、中村百貨店の5者で

栄共同ビルを建設することで合意。その時に生まれたビル管理会社が「オリエンタル興産」で、ビル全体も9階建てで統一されました。（1980年、オリエンタル中村百貨店から名古屋三越百貨店に商号変更）

——南隣に2005年、ラシックが誕生します。

平松 敷地面積約2000坪ですが、当初は1坪も持っていませんでした。主な所有者の紡績会社の破たんの一部を取得し、その後、2002年、再開発事業組合を設立し私は副理事長に。200坪を所有していますが、筆頭は明治安田生命、次いで三越。うちは3番目です。2005年3月、愛知万博開幕と同時期にオープンしました。地上14階、地下3階、売り場面積2万9000㎡で170店が出店しています。

——オリエンタルビルは今年70周年、オリエンタル興産は55周年です。

平松 創業者は自分でどんどん事業を進め、戦後の名古屋・栄のランドマークを造ったと思います。今は名駅が脚光を浴びていますが、私はもう一度栄がいちばん光るようなものを創ってきたい。百貨店の将来は難しいと思いますが、業態を変えるなど安住するより、苦勞してでも50年先も生きていける中興の祖になりたいですね。一方でここまで継承できたのは先代が石橋を叩いて渡るタイプだったから、とも思っています。背伸びせず、過度な投資はやっていなかったのが幸いました。

——名古屋三越ビルの建て替えについては？

平松 テナントの三越さんや他の地権者の合意が必要です。このままではいけないという危機感は共有しており1年前から定期的に勉強会を開き、再開発事業認定を目指しています。そのためには外資系も含め名古屋にないトップブランドのホテルの誘致など社会貢献も果たしたい。協力していただけるパートナーも探さないといけない。準備組合を来春くらいに設立目標で進めています。

周りでは新中日ビルが建設中で、旧日銀後の栄交差点の超高層ビルも今夏着工

済み。また久屋大通の第2期改装工事も始まり栄は大きく変わります。

いずれにしろキーテナントの三越さんがどうい商業をやりたいのかが大きなカギ。来て、見て、食べてなど皆が楽しめるデパートの夢・役割は大きいと思います。それがビル全体の魅力になるのです。

——話は変わりますが、フェラーリの世界的コレクターとしても有名です。

平松 現在11台所有しています。子供のころから絵を描くことが好きで、フェラーリの流れるようなデザイン・フォルムに魅せられ、デザイナーを目指そうと考えたこともあります。F1レースでVを重なるなど他のメーカーにはない走る実験室のような斬新さがある一方、古い車も味わい深い。陳腐化せず芸術品みたいな時間を超越した価値がある。私の車も古いのは1957年製ですが今でも普通に乗れます。

——今後の抱負を聞かせてください。

平松 社長に就いて30年。風通しが悪くならないように気を付けています。将来的には2人の息子と甥の3人が力を合わせて盛り上げてもらいたい。

一方で50年経ってみて、「いいものを創ってくれたなあ」と言われるようにするのが私の使命。新ビルは三越さんの意向が重要で、地権者も含め外部の方の見守りや協力・知恵が必要です。もうひと踏ん張り頑張ります。



平松さんの所有する11台のフェラーリ